

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2 個別計画
《2-1 南山大学》

南山学園中期計画				マイルストーン					2025年度			
大項目	中項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)
(1)大学としての戦略	(1)-1 新たなビジョンの策定	(1)-1-1 新たなグランドデザインの策定	(1)-1-1-1 ・2007年策定「南山大学グランドデザイン」の検証 ・委員会の編成と検討 ・新たなグランドデザインの公表と実施	委員会の編成・検討作業	新グランドデザインの検討	新グランドデザインの公表	新グランドデザインの実施・普及	新グランドデザインの実施・普及	・2026年度に完成する現行のグランドデザインの実施状況を検証する。 ・2027年度から実施するグランドデザインの策定に向け、20年後の大学像に関する検討に着手する。			
		(1)-1-2 新たな国際化ビジョンの策定	(1)-1-2-1 ・2015年策定「南山大学国際化ビジョン」の検証 ・委員会の編成と検討 ・新たな国際化ビジョンの公表と実施	委員会の編成・検討作業	新国際化ビジョンの検討	新国際化ビジョンの公表	新国際化ビジョンの実施・普及	新国際化ビジョンの実施・普及	・2015年に策定した現行のビジョンの実施状況を検証する。 ・新たなビジョンの策定に向けた検討に着手する。			
	(1)-2 建学の理念の継承	(1)-2-1 周年事業に向けた体制整備	(1)-2-1-1 ・学園創立 100 周年事業(2032年) ・大学創立 100 周年事業(2046年)	年史編纂および周年事業企画体制の編成	年史編纂および周年事業企画立案	年史編纂および周年事業企画立案	年史編纂および周年事業企画立案	学園創立100周年事業の課題提示	・山里キャンパス60周年事業を継承するプラットフォームサイト「YAMAZATO60+」を開設する。 ・学園および大学創立100周年事業に向けたロードマップを検討する。			
		(1)-2-2 宗教性の涵養	(1)-2-2-1 ・建学の理念「キリスト教世界観に基づく教育」と教育モットー"Hominis Dignitati（人間の尊厳のために）"への教職員の関心を高め理解を深め、さらに学生への浸透を進める。	FD/SD委員会 で企画を検討	FD/SD企画として実施	FD/SD企画として実施	FD/SD企画として実施	FD/SD企画として実施	・「宗教性の涵養」を視野に入れつつ、全学的にSDとFD体制を再整備する。 ・「人間の尊厳」科目等の授業を通じて「人間の尊厳賞」の意義を学生に浸透させる連携を検討する。			
(2) 教育・研究	(2)-1 教育の質保証	(2)-1-1 教学マネジメントの確立	(2)-1-1-1 ・2027年認証評価受審までに、「学習成果の適切かつ多角的な把握・評価」および「大学院収容定員に対する在籍学生数比率の改善」について検証する。 ・教学マネジメント体制を整備する（アセスメントテスト、学修達成度・学修行動調査、卒業生・企業調査の実施、内部質保証への学生参画等の各事業を実質化）。 ・学修成果・教育成果の把握・可視化した結果をIRとしても活用し、教育の質保証に活かす。	教学マネジメント体制の確立と実施。	取り組みを点検・評価し、次年度の認証評価のための自己点検・評価報告書を提出する。	認証評価の実地調査までに取り組みに係る資料を提出するとともに実施後の評価結果について把握する	認証評価の結果を検証しこれまでの振り返りおよび結果を分析し更に質保証に活かす	教学マネジメントに係る各事業の点検・評価結果の活用等を更に発展させ教育の質保証の充実を図る	・2025年新設の教学マネジメント推進委員会を通じ、教育の実質的な質保証を実施する。 ・シラバスを改修し教育の質保証に対応させるとともに、すべての学生を対象としてアセスメントテストを実施する。 ・学修成果可視化システムを導入し、その円滑な実施を促す。			
		(2)-1-2 時代の要請に応じた新たな教育プログラム	(2)-1-2-1 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの導入と実施	数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（MDASH）申請	MDASH認定予定	プログラムの検証	プログラムの検証	プログラムの検証	・2026年度に実施する教育プログラムに向けて新規科目の導入などを含め提案する。 ・アントレプレナーシップ教育、サービスラーニングなどを含めた教育の充実を検討する。			
		(2)-1-3 多様な学生の受け入れ	(2)-1-3-1 少子化時代における新たな入試制度に向けた体制を整備する。高大連携の推進、年内入試の拡充、中長期的な入試戦略を各学部・学科と連携しつつ検討する学内組織を再編する。	年内入試を拡充するとともに、入試制度を支える体制を整備する。	入試制度を検証する体制を整備する。また、高大連携を拡充する。	計画的かつ継続的に入試制度を検証する。	計画的かつ継続的に入試制度を検証する。	計画的かつ継続的に入試制度を検証する。	・すべての学部において総合型選抜を導入する。 ・入学センターの新設に伴い、入試結果の検証および大学教育の魅力を受験生に伝える入試広報を充実させる。			
	(2)-2 国際教育の拡充	(2)-2-1 国際共修科目の充実	(2)-2-1-1 対面型国際共修科目（オープンコース）、オンライン型国際共修科目（NU-COIL）の拡充と、それを支えるための Learning Communityの整備	Learning Communityの形成と国際共修科目の拡充	国際共修科目の拡充	国際共修科目の拡充	国際共修科目の拡充	国際共修科目の拡充	・新たな国際化推進事業によって、COILの手法を用いる科目と、外国人留学生別科のオープンコース科目を増加させる。 ・NU Global Learning Communityを設立し、教員同士のネットワークを構築する。			
	(2)-3 大学院教育の充実	(2)-3-1 大学院教育における新たな教育体制の整備	(2)-3-1-1 大学院におけるリスキリング教育、リカレント教育 学部教育と大学院教育の連続性を意識した学位プログラム 大学院生を対象とする国際化推進	新たな教育体制の検討	新たな教育体制の検討	新たな教育体制の実施と広報	新たな教育体制の点検評価	新たな教育体制の点検評価	・リカレント教育の実現可能性について、大学院各研究科で検討する。			
	(2)-4 研究力の強化	(2)-4-1 学術交流・研究連携体制の充実	(2)-4-1-1 海外研究者受け入れ体制の充実 学内諸組織が協力して行う研究を積極的に進めるための研究支援体制の強化	現状の検証	新たな体制の検討	新たな体制の実施	新たな体制の検証	新たな体制の検証	・国際化推進事業を通じ、個々の教員による研究活動を支援するとともに、海外協定校との教育・研究両面にわたる交流を促進する。 ・ジブリパーク・オフィシャルパートナーの企業と連携し、本学と企業、自治体による産学官共創事業を構想する。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2 個別計画

《2-1 南山大学》

南山学園中期計画				マイルストーン					2025年度			
大項目	中項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)
(3)施設・設備	(3)-1 キャンパス整備	(3)-1-1 既存施設の点検・改修	(3)-1-1-1 体育施設、国際学生寮、情報ネットワーク等の点検・改修	現状の検証	新たなあり方の検討	新たなあり方の提案	新たなあり方の実施	新たなあり方の検証	・既存施設の現状を点検する。			
		(3)-1-2 多様性に配慮したキャンパス整備	(3)-1-2-1 多様な背景をもつひとたちが過ごしやすいキャンパス環境を整備する。	現状の検証	新たなあり方の検討	新たなあり方の提案	新たなあり方の実施	新たなあり方の検証	・省エネ・節電に努める等環境に配慮した行動をするとともに、建物・施設のさらなるバリアフリー化を図るような改修を継続する。			
(4)社会・地域貢献	(4)-1 学知の社会還元	(4)-1-1 南山大学の研究機関およびMLAの相互連携に基づく学知の社会還元推進	(4)-1-1-1 研究所、研究センター、人類学博物館、ライネルス中央図書館の連携によるイベント、公開講座、刊行物公表等の実施、および、それらについての広報の統括体制の構築	現状の検証	検証を踏まえた実施・広報体制の検討	実施・広報体制の導入	社会還元活動の実施	社会還元活動の検証	・ライネルス中央図書館を中心に、セミナー室やラーニングコモンズ等の関連施設との有機的な連関を有する知的交流スペースの創出に向けて現状を検証する。 ・本学の研究所・研究センターの活動が多くの人びとに周知され評価されるための新しいウェブサイトを開設する。並行して本学の研究推進体制を再整備する。			
		(4)-2-1 STATION Aiの活用 南山エクステンション・カレッジの体制の再整備	(4)-2-1-1 STATION Aiの積極的な活用方法、地域内の他大学や企業との連携事業の可能性を検討し、アントレ教育と産学連携両面での新しい社会・地域貢献の活用方法を探る。 南山エクステンション・カレッジの組織体制を見直し、より効果的に社会貢献できる地域拠点となることを目指す。	現状の検証	新たなあり方の検討	新たなあり方の提案	新たなあり方の実施	新たなあり方の検証	・現行のカリキュラムに潜在するアントレプレナーシップ教育を掘り起こし、本学独自のアントレプレナーシップ教育コースを構想する。 ・地域のスタートアップ施設等を通じて様々な事業者と連携し、様々な社会課題の解決を志向するアントレプレナーシップを広く育む土壌をつくる魅力的なプログラムを立案する。			
	(4)-3 カトリック連携	(4)-3-1 カトリック中高との連携強化	(4)-3-1-1 学園内外のカトリック中高との連携を強化する。	連携プログラムの検討	連携プログラムの実施	連携プログラムの実施	連携プログラムの検証	連携の強化	・カトリック系中学校・高等学校を中心に高大連携をさらに推進する。 ・カトリック系高等学校8校を対象とする高大連携講座を実施する。			
		(4)-3-2 カトリック系高等教育機関との連携強化	(4)-3-2-1 国内外のカトリック系高等教育機関との連携を強化する。	国際共修・協定校の拡充	国際共修・協定校の拡充	連携の検証	新たな連携推進	新たな連携推進	・カトリック系中学校・高等学校との包括連携協定の拡充を継続的に進める。カトリック系高等学校との包括連携協定に基づいた高大連携の具体的な取り組みを整備・実施する。			
(5)財政計画	(5)-1 健全かつ効果的な財政の実施	(5)-1-1 適切な財源の確保	(5)-1-1-1 中長期的な財務予測に基づき、学生納入金改定も視野に収入額全体の改善策を検討し、適切な時期に収入改善を実施する。	改善策の検討	改善策の検討	改善策の検討	改善策の検討	改善策の検討	・学生納入金改定を視野に入れつつ収入額全体の改善策を検討する。			
			(5)-1-1-2 収容定員充足率に注視し、確実に収入額が確保できるような定員管理を実施する。	適切な収容定員管理の実施	適切な収容定員管理の実施	適切な収容定員管理の実施	適切な収容定員管理の実施	適切な収容定員管理の実施	・入学センターの新設に伴い、一般選抜の検証と年内入試の充実を戦略的な観点から行う。			
			(5)-1-1-3 学生納入金以外の収入（補助金、寄付金、付随事業収入、受託事業収入など外部資金）の獲得を積極的に取り組む。	外部資金獲得方策検討	外部資金獲得前年度比UP	外部資金獲得前年度比UP	外部資金獲得前年度比UP	外部資金獲得前年度比UP	・すべての教職員が財政的視点をもって仕事をする。 ・「ほまれはここに我が南山」学生応援募金事業を創設する。			
		(5)-2-1 適切な予算編成の実施	(5)-2-1-1 健全な財政と中長期事業計画の両立に向けて、予算編成方法を見直す。	過年度における予算と決算の乖離分析を行い、新たな予算編成方法を検討する。	新たな予算編成方法の実施	新たな予算編成方法に基づく補正、決算の検証	新たな予算編成方法に基づく補正、決算の検証	新たな予算編成方法に基づく補正、決算の検証	・過年度における予算と決算の乖離分析を行い、新たな予算編成方法を検討する。			
			(5)-2-1-2 毎年度、当年度収支差額の収支均衡を目標とする。	収支均衡の実現	収支均衡の実現	収支均衡の実現	収支均衡の実現	収支均衡の実現	・収支均衡の実現に向けて、学納金改定および支出削減計画策定小委員会を通じ、支出額の削減案を検討する。			
	(6)-1 人材育成の推進	(6)-1-1 FD、SDの継続的な実施	(6)-1-1-1 さらなる教職員の能力と意識向上のため、魅力ある企画の立案・実施に取り組む。	現状の検証	新たな企画の検討	新たな企画の提案	新たな企画の実施	新たな企画の検証	・教育の質保証を支えるFD・SD活動を活性化させる。 ・建学の理念へのさらに深い理解を促すFD・SD活動に取り組む。			
		(6)-1-2 教員評価の有効活用	(6)-1-2-1 各学部・各研究科の教員評価の実施制度を点検・評価する。	現状の検証	評価・改善	評価・改善	評価・改善	評価・改善	・各学部・各研究科における自己点検・評価等を通じて教員評価の在り方を検討する。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2 個別計画

《2-1 南山大学》

南山学園中期計画				マイルストーン					2025年度			
大項目	中項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)
(6)組織運営と人材育成	(6)-2 組織体制と運営基盤の整備	(6)-2-1 大学設置基準の改正に基づく組織運営の整備	(6)-2-1-1 基幹教員制度の導入にむけた継続的検討	基幹教員制度の 検討	基幹教員制度の 検討	基幹教員制度の 導入	基幹教員制度の 実施	基幹教員制度の 評価	・基幹教員制度の導入に向けて準備に着手する。			
		(6)-2-2 学内におけるダイバーシティの推進	(6)-2-2-1 多様な背景を持った教員の採用	現状の検証	新たなあり方の 検討	新たなあり方の 提案	新たなあり方の 実施	新たなあり方の 検証	・募集・採用、会議体や意思決定過程等の参画のみならず学生生活においてもジェンダーバランスに配慮する。 ・多様な背景をもつ人たちが対話を通じて相互理解を深めつつ共生できる環境の実現を目指す。			
		(6)-2-3 対話を通じた大学・学部運営	(6)-2-3-1 IR推進室が提供するデータに基づき、教学実践の点検・評価・改善を継続的に実施する組織風土をつくる。	学内外向けデータの整理と利活用の検討	学内外向けデータの整理と利活用の検討	2027年認証評価受審	評価結果を踏まえた改善検討	評価結果を踏まえた改善の実施	・対面での対話はもちろん、データに基づいた対話を通じて、大学の内部質保証に資する活動を展開する。			
		(6)-2-4 戦略的思考の組織的浸透	(6)-2-4-1 大学DXの推進 業務の見直しと作業量の軽減	現状の検証	新たなあり方の 検討	新たなあり方の 提案	新たなあり方の 実施	新たなあり方の 検証	・DXの推進とAIの活用を含め、業務改善のあり方について、各部署に対話を進め、より働きやすい環境の実現を目指す。			

*1) 評価欄は、○（完了・緑）、△（進行中・黄）、×（未取組・赤）、-（実施対象年度以前・白）で評価する。
進捗を把握するため○（1点）、△（0.5点）、×(0点)、-（0点）で算出する。